

才良吉田谷 1号墳発掘調査報告

～ 三重県伊賀市才良 ～

2 0 1 5 (平成 27) 年 2 月

三重県埋蔵文化財センター

例 言

1. 本書は三重県伊賀市才良に所在する才良吉田谷 11 号墳の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の調査は、基幹農道整備事業依那古 2 期地区に伴い、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて実施した。なお、現地調査については、伊賀農林事務所からの労務提供による。
3. 発掘調査の経費は、三重県農林水産部の全額負担による。
4. 調査の体制等は次の通りである。

調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
調査研究 1 課
主査 谷口文隆 伊藤亘 主幹 伊藤裕偉 技師 櫻井拓馬
調査期間 平成 25 年 8 月 5 日～平成 25 年 8 月 9 日
調査面積 才良吉田谷 11 号墳 140m²
5. 調査にあたっては、地元自治会をはじめ、三重県農林水産部、伊賀農林事務所、伊賀市教育委員会、奥建設株式会社の協力を得た。
6. 当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究 1 課が行い、本書の執筆・編集は谷口文隆が行った。
7. 当地は平面座標系第 VI 系に属しており、本書での方位は座標北を使用している。
なお、座標値は世界測地系 2000 に基づいて表示している。
8. 遺跡位置図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2006 三重県共有デジタル地図(数値地形図 2500(道路縁 1000))」を使用し、調整したものである。(承認番号：三総合地第 93 号)
9. 当発掘調査の記録は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。
10. 土層及び遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖 (21 版)』による。
11. 本書では以下のように遺構の略記号表記をしている。

S X : 墓壇

目 次

I 前 言	1
1 調査に至る経過	
2 文化財保護法等に関する諸手続	
3 調査経過	
4 調査の方法	
II 位置と環境	2
1 地理的環境	
2 歴史的環境	
III 遺 構	4
IV 結 語	9

挿 図 目 次

第1図 遺跡周辺地形図.....	3
第2図 遺跡位置図.....	4
第3図 調査区位置図.....	5
第4図 調査前測量図.....	6
第5図 調査後平面図.....	7
第6図 調査区土層断面図.....	8

写 真 目 次

調査前風景・調査後全景.....	10
調査区平坦部・S X 1	12

I 前 言

1 調査に至る経過

平成 21 年度より、農免農道事業（上野依那古 2 期地区）が行われている。この事業は才良吉田谷古墳群・才良山ノ谷古墳群が所在する才良地区西部の丘陵を通過する。そのためこの事業に伴い、平成 21 年度から 23 年度にかけて、発掘調査（記録保存）を実施した。沖打越 1 号墳・沖打越中世墓、才良吉田谷古墳群（1～3 号墳）・才良山ノ谷 28 号墳・才良吉田谷遺跡の発掘調査があり、この成果はすでに報告書を刊行している。

才良吉田谷 11 号墳は、当初工事用地からは外れていたが、用地縁辺部の崩落のため法面の補修工事が必要となり、それが遺構に影響を及ぼす範囲であるため、遺跡保存について伊賀農林事務所と協議を開始するに至った。その結果、才良吉田谷 11 号墳墳裾部 140㎡について発掘調査を実施し、記録保存することになった。発掘調査は工事立会の形式で実施することとなった。

2 文化財保護法に関する諸手続き

文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）および三重県文化財保護条例（昭和 32 年条例第 72 号）にかかる諸手続きは以下のとおりである。

○三重県埋蔵文化財保護条例第 48 条第 1 項

・平成 25 年 7 月 31 日付 賀農第 483 号

三重県知事から三重県教育委員会教育長あて

「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」（才良吉田谷 11 号墳）

○三重県埋蔵文化財保護条例第 48 条第 2 項

・平成 25 年 8 月 1 日付 教委第 12-4048 号

三重県教育委員会教育長から三重県知事あて

「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について（通知）」（才良吉田谷 11 号墳）

3 調査経過

調査の開始に先立って、5 月 31 日に伊賀農林事務所と現地協議を行い調査範囲、排土置場、工程等

の確認及び調整をはかった。その後 6 月 21 日、7 月 10 日・12 日の 3 日間で調査前の地形測量を行った。

7 月 23 日には、工事受託業者である奥建設株式会社と、伊賀農林事務所、当センターとの 3 者協議を行い、樹木伐採及び重機進入路等についての確認を行った。

樹木伐採終了後の 7 月 31 日に調査前の写真撮影を行い、8 月 5 日より調査を開始した。

8 月 5 日・6 日の両日で、重機による表土掘削を行ったが、重機進入路が調査区南側であるため、調査区北側から開始した。6 日には、調査区南部の表土をめくり、重機での掘削を終了するとともに、人力での掘削を行った。墓壇掘方とみられる遺構が検出できたものの、遺物の出土が全くなく、掘削を終了した。

8 月 7 日に、調査区全景の写真撮影を行い、翌 8 日に、土層断面図の実測を行った。8 月 9 日には、調査区の平面図実測及び測量を行い、現地での調査を終了するとともに、伊賀農林事務所に現地の引き渡しを行った。

4 調査の方法

今回の調査は古墳の墳裾部、140㎡であることと、補修工事が台風シーズンまでに終了したいという伊賀農林事務所の意向に沿って、早急に終了する必要があるため、調査の基本単位である 4 m × 4 m のグリッドを設定せずに行った。

地形測量については、調査前地形測量図及び調査後の調査区地形測量図を 1/100 の縮尺で作成し、等高線は 25cm 間隔で表記している。

図面については、全体の遺構平面図は調査後の地形測量図に反映し、土層断面図については 1/20 の縮尺で、手書き実測を行った。

写真撮影は、調査前風景及び調査区全景を 6 × 7 判（ブローニー）及び 35mm カメラを併用して撮影した。

なお、現地作業については、伊賀農林事務所からの労務提供により実施した。

Ⅱ 位置と環境

1 地理的環境

才良吉田谷 11 号墳(1)は、三重県伊賀市才良に所在する。伊賀市は三重県の中央西端ある「上野盆地」内北方に位置している。四方を山に囲まれた上野盆地は、三重県に属しているが、伊勢方面を中心とした東海地方より、むしろ近畿圏の文化的色合いが強い地域である。才良は伊賀市のやや南東にあたり、大阪湾に流れ込む淀川につながる木津川の右岸中流にあつて、沖の丘陵地南側縁辺に位置している。才良の南には、木津川支流の比自岐川に沿った比自岐小盆地が広がっており、才良吉田谷 11 号墳は、南にこの比自岐盆地を見通せる標高約 190m（周辺水田面からの比高約 30m）の丘陵上に立地している。なお、木津川の上流部には低い丘陵で隔てられ、阿保小盆地、比土・古郡小盆地、上神戸小盆地が存在している。また上流部の南西には古くは「美濃ヶ原」と呼ばれた小高い丘（現在の美旗）が広がっている。

2 歴史的環境

古墳時代、上野盆地内は木津川水系の四河川に沿つて、4 郡域に分かれていた。後の律令制下における柘植川流域の阿拝郡域、木津川流域の伊賀郡域、服部川流域の山田郡域、宇陀川・名張川流域の名張郡域である。このなかでは、柘植川流域において 4 世紀前半と考えられる、長さ 4.5m の割竹形木棺が見つかった東山古墳^①が三重県内でも最古の古墳であり、続いて三角縁神獣鏡が出土した山神寄建神社古墳^②が築かれる。4 世紀末頃になると、木津川流域

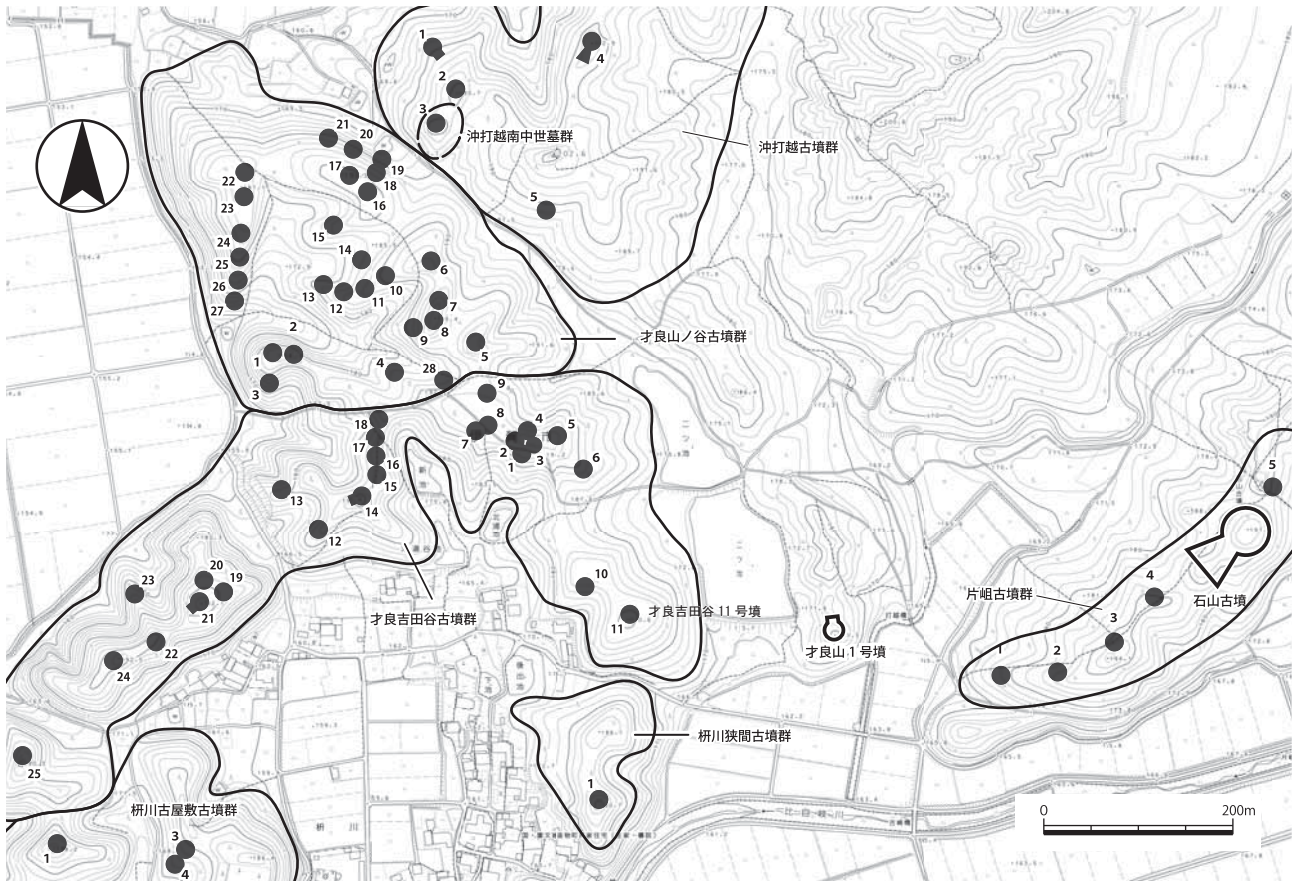
の伊賀郡域である才良に全長 120m の石山古墳(2)が築かれる。4 世紀末から 5 世紀初頭の当時としては伊賀・伊勢を通して最大の規模であり、多くの埴輪や副葬品が出土している^③。石山古墳の後には、伊賀郡域において南部に殿塚古墳(3)が築かれ、以後 4 世紀後半から 6 世紀前半を通して、首長級の規模をもつ古墳は、女郎塚古墳(4)、毘沙門塚古墳(5)、馬塚古墳(6)、貴人塚古墳(7)と美旗古墳群に築かれていく。一方、北部となる才良周辺では、石山古墳の影響が想定される家形埴輪が出土した 4 世紀末の沖打越 1 号墳^④(8)、金銅装馬具類が出土している才良吉田谷 1 号墳^⑤(9)をはじめ、才良東部丘陵地に群集墳が 7 世紀代まで築かれていく。さらに比自岐盆地内において、6 世紀初頭の王塚古墳(10)では、三色色彩の人物埴輪が出土した^⑥。また 4 世紀後葉から 5 世紀前半を中心とした城之越遺跡(11)は大規模な水源地祭祀施設を持つことで知られており^⑦、伊賀郡の首長層との関わりが考えられる。

【註】

- ①仁保晋作「阿山町東山古墳の遺構と遺物」『研究紀要 1』三重県埋蔵文化財センター（1992 年）
- ②伊賀市『伊賀市史 第 1 巻 通史編 古代・中世』（2011 年）
- ③三重県埋蔵文化財センター『第 24 回三重県埋蔵文化財展 石山古墳』（2005 年）
- ④三重県埋蔵文化財センター『沖打越 1 号墳・沖打越中世墓発掘調査報告』（2012 年）
- ⑤三重県埋蔵文化財センター『才良吉田谷古墳群・才良山ノ谷古墳群ほか発掘調査報告』（2013 年）
- ⑥三重県『三重県史 資料編 考古 1』（2005 年）
- ⑦三重県埋蔵文化財センター『城之越遺跡』（1992 年）



第1図 遺跡周辺地形図 (1:40,000) [国土地理院「上野」「名張」より作成]



第2図 遺跡位置図 (1:8,000)

Ⅲ 層位と遺構

1 才良吉田谷 11 号墳の現況

才良吉田谷 11 号墳は尾根上に立地しており、直径約 25m の円墳とみられる。尾根平坦面から墳頂まで約 3m 盛り上がり、西側と南西部に崩落の跡が確認できる。東側についても、若干であるが、土砂の流出があったものと思われる。また墳頂部はほぼ平坦であるものの、北と南にやや盛り上がりが見られ、墳丘の中心部より高くなっている。墳頂部の中心より南へ 4m～9m の長さで横穴開口部とみられる窪みが見られる。またその南側には石室を構成していたと考えられる石の散乱が確認でき、また、墳頂部と墳丘東側面に「富士大権現」と刻まれた石が置かれている。

2 基本層序と遺構

調査区は才良吉田谷 11 号墳の墳裾東側にあたる。基本層序は、約 10cm 厚の表土の下に明黄褐砂質土

の流出土が厚いところで 40cm 堆積しており、その下に浅黄橙砂質土の地山となる。

調査の結果、墓壇掘方 SX 1 が確認された。SX 1 は、方形とみられ、検出できたのは隅の部分で奥行約 1m のみである。埋土は浅黄橙色の砂質土に黄橙色の粘質土が混ざっている。遺構の端部であるためか、深さは約 18cm と薄い。なお、遺物は出土していない。

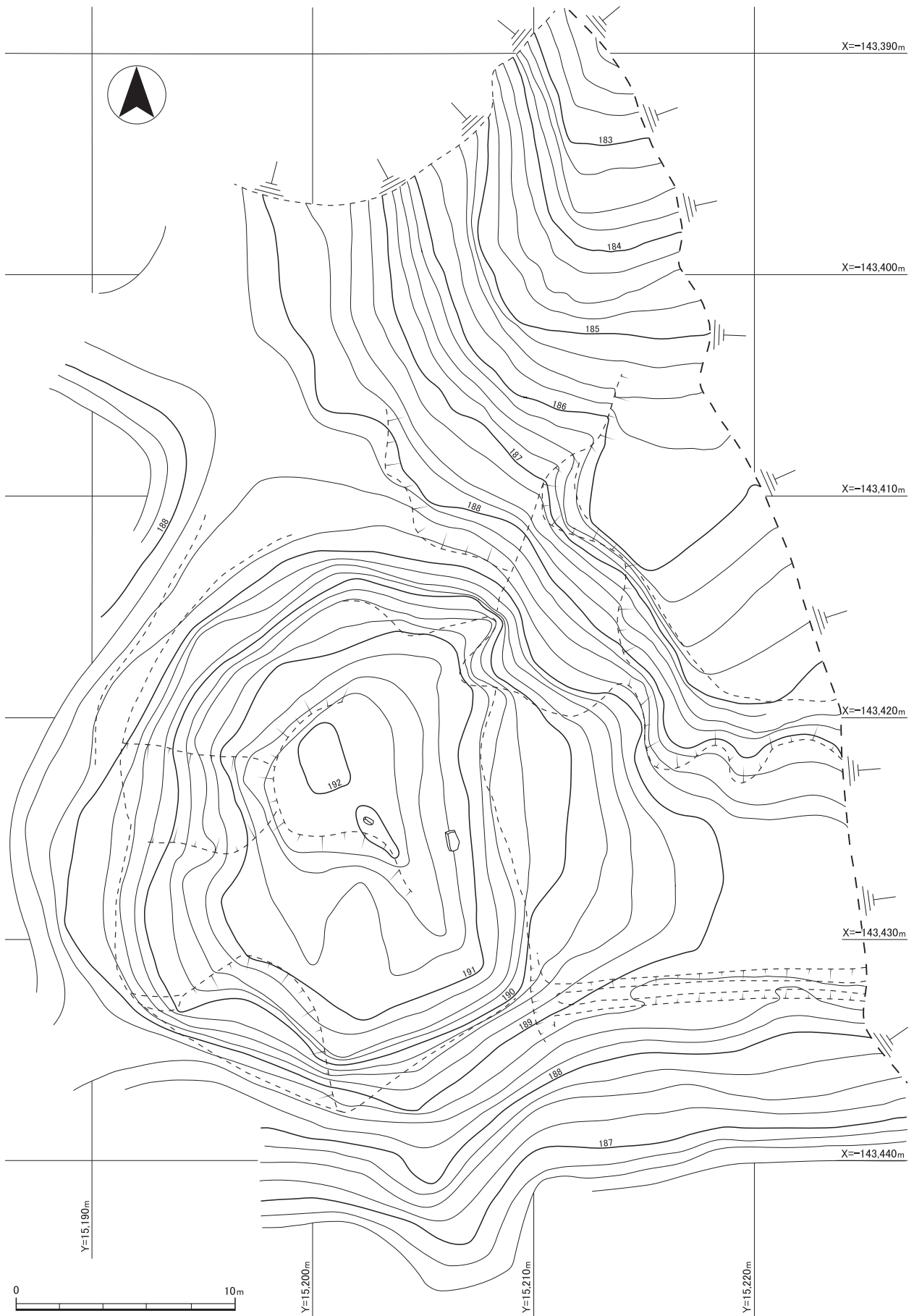
古墳周溝については確認されず、調査区南部で墳丘を囲う窪んだ低地が見られたものの、墳丘を円く囲う様相を見せず、南の尾根方向に緩やかに傾斜している。

また調査区内においては墳丘の盛土が確認されず、東側に向かって緩やかな地山の傾斜が確認された。

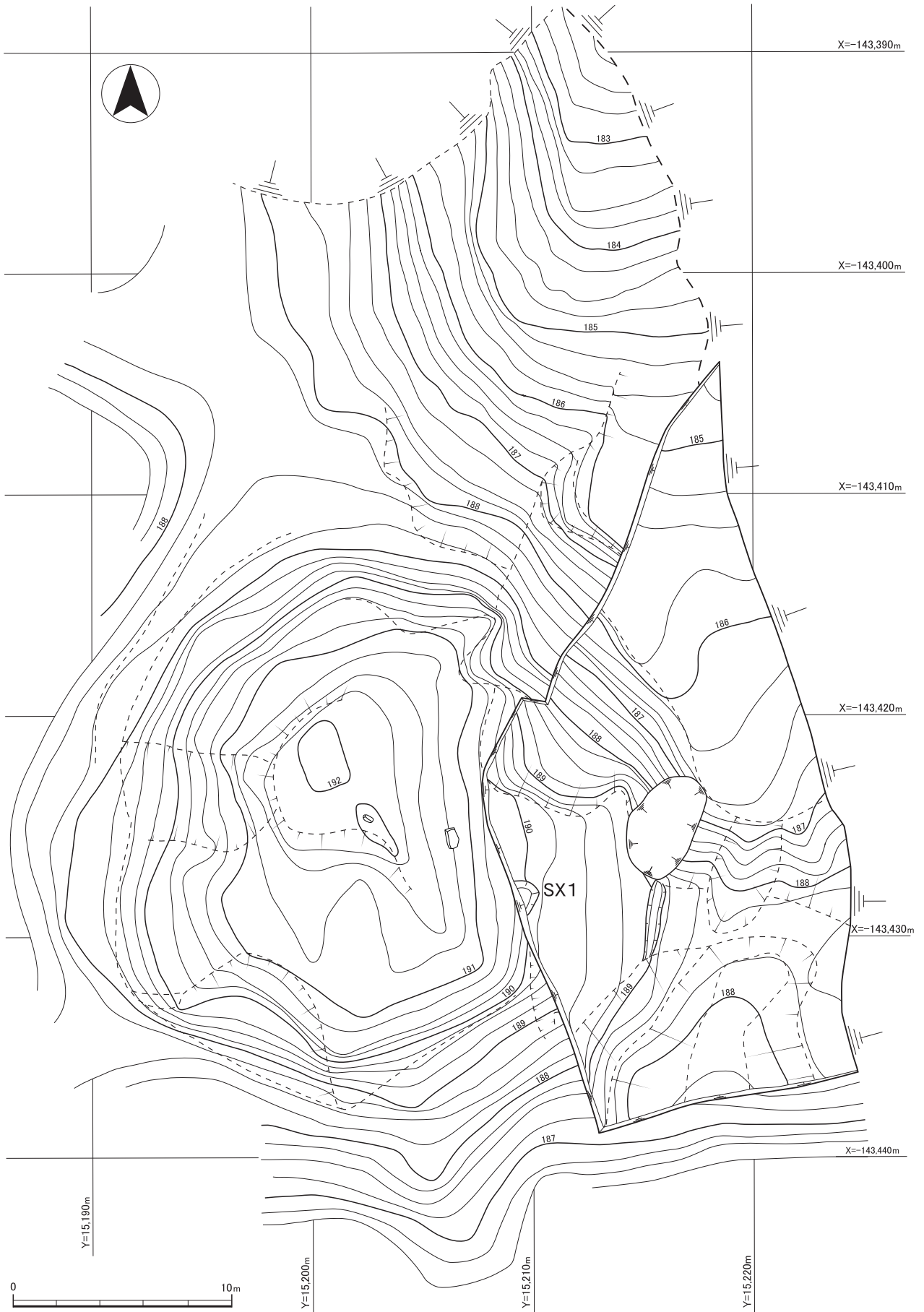
なお、調査区北西部の平坦面であるが、当初、全体的な地形から、平坦面全体がずれ落ちた可能性が考えられたが、土層を確認してもずれた形跡はなく、谷状の地形であると考えられる。



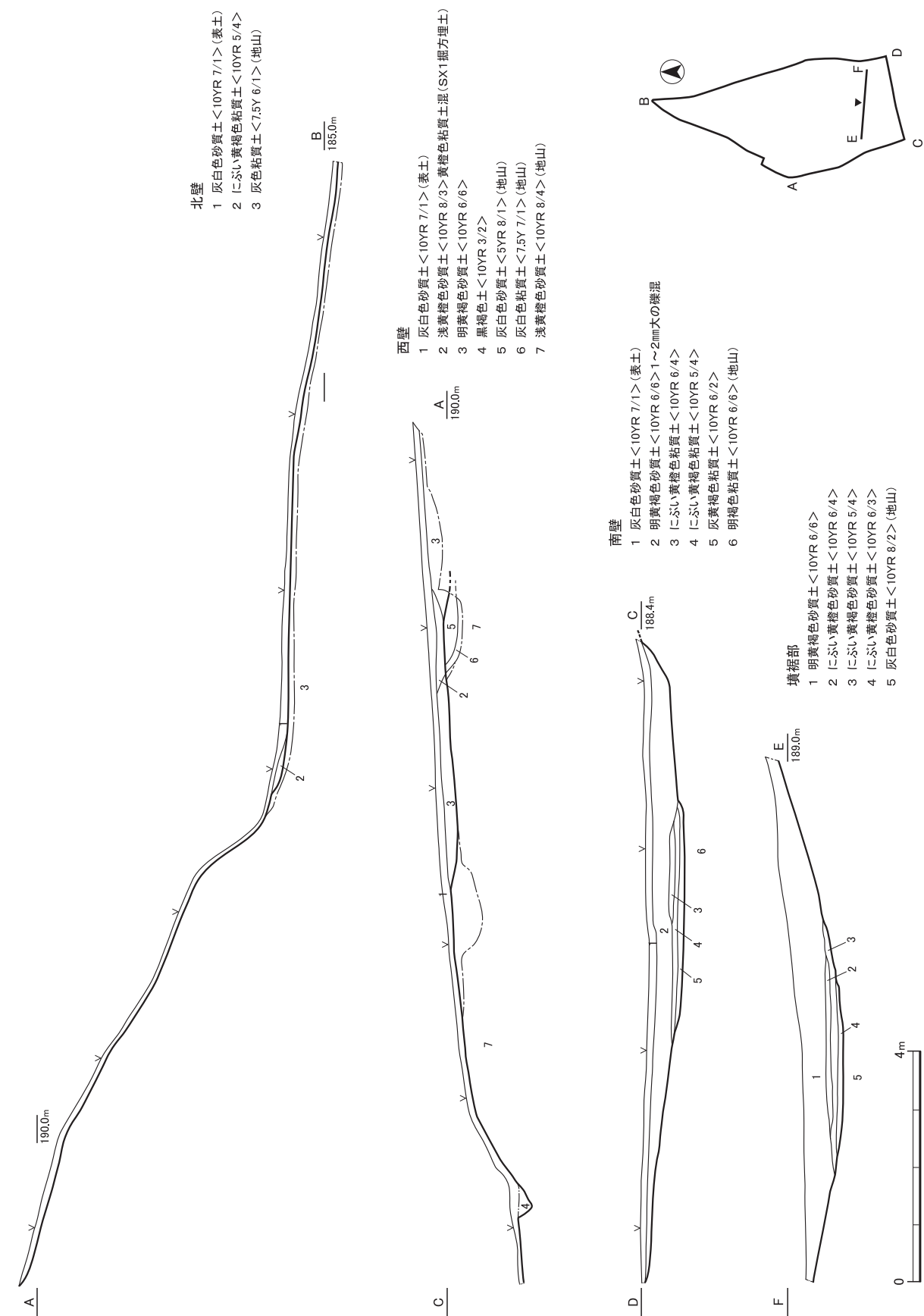
第3図 調査区位置図 (1:1,000)



第4図 調査前測量図 (1:250)



第5図 調査後測量図 (1:250)



第6図 土層断面図(1:100)

IV 結 語

1 11号墳の立地

調査前には、墳丘部及び墳丘より北東の平坦面などの地形から、周溝を想定した。また平坦面はその周辺からやや低い位置にあるため、地滑りが起こった可能性も考えられた。しかし調査の結果、周溝とみられる遺構は検出できず、また平坦面においても遺構は検出できなかった。また当初地滑りの可能性が考えられた平坦面であったが、土層確認及び調査区東側の崩落部を確認したところ、そのような形跡は見られず、通常の谷状地形であると判断できた。

11号墳の規模についてであるが、調査前の測量から直径約25mの円墳と考えられた。調査において、周溝は確認できず、東に向かって墳丘からの緩斜面が確認できた。下がり切った部分は墳丘の中心から約16mになる。この部分を墳裾ととらえると古墳の形はやや東に膨らんだものになる。この中心から約16mの距離というのは、北東の平坦面と盛り上がりとの境にもつながるが、それ以外には墳丘としての形跡はみられない。よって測量から判断した約25mの円墳と考えるのが妥当であろう。

また墳丘本体を調査していないため判断はできないが、調査区内においては墳丘の盛土は確認できなかった。墳頂付近において表土直下で地山が検出されている才良山ノ谷28号墳のように、盛土の形跡がないものもあり^①、11号墳も地山の削り出しによって造られた可能性が考えられる。

遺構としては、調査区西端、墳丘中心部に一番近いところで、墓壙掘方(SX1)の一部が検出された。掘方は、方形で、検出できたのは隅の部分と考えられる。

11号墳の立地場所は、南にも西にも開けており、非常に見晴らしのよい丘陵上である。才良吉田谷古墳群、才良山ノ谷古墳群は、古墳群のまとまりとしては西の才良集落に面しているが、11号墳は南の比自岐集落に面している。また踏査から開口部は南向きと考えられる。遺物が出土していないため判断することはできないが、規模も他のもの比較してやや大きいこともあり^②、後期古墳のなかでも、比自岐集落の方向を意識した古墳であるかもしれない。

2 富士大権現の石碑

11号墳の墳頂に「富士大権現」と刻まれた石碑があり、近世において広まった富士講(浅間講)との関連も考えられている^③。富士信仰に伴い、富士塚が築かれることも行われたが、その中には古墳を改造して造られたものもみられる。11号墳についても、南方、西方への見晴らしのよい条件を取り入れて、富士塚として信仰を集めた可能性も考えられる。また11号墳より真北に9kmには「伊賀小富士」と呼ばれる南宮山がある。古来より信仰されてきた南宮山の頂上には浅間社の祠があり、才良との関連も考えられる。

【註】

- ① 三重県埋蔵文化財センター『才良吉田谷古墳群・才良山ノ谷古墳群ほか発掘調査報告—伊賀市才良—』(2013年)
- ② 前掲①に同じ
- ③ 前掲①に同じ

写真図版 1



調査前風景（北西から）



調査後全景（北西から）



調査前風景（東から）



調査後全景（東から）

写真図版 3



調査区平坦部（北から）



S X 1（東から）

報告書抄録

ふりがな	ざいりょうよしだたにじゅういちごうふんはつくつちょうさほうこく							
書名	才良吉田谷 11 号墳発掘調査報告							
副書名								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	357							
編著者名	谷口 文隆							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒 515-0325 三重県多気郡明和町竹川 5 0 3 Tel 0596(52)1732							
発行年月日	西暦 2015 年 2 月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ざいりょうよしだたに 才良吉田谷 11 号墳	みえけんい が しざりょう 三重県伊賀市才良	216	a 1267	34° 4' 1"	136° 0' 59"	20130805 ～ 20130809	140	基幹農道整備事業 上野依那古 2 期地区
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
才良吉田谷 11 号墳	古墳	古墳	墓壇掘方	なし				
要約	当遺跡は木津川右岸丘陵地に存在し、直径約 25m、高さ 3m の円墳とみられる。調査区内では、墓壇掘方及び墳裾の可能性のある窪みを確認できたにとどまる。古墳の主体となる部分は、調査区より西に存在すると考えられる。							

三重県埋蔵文化財調査報告357
才良吉田谷 11 号墳発掘調査報告

2015（平成27）年2月
編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 共立印刷株式会社

